

～自死遺族が自らの言葉で自死遺族支援と自死予防について語る～

# 自死問題シンポジウム

どなたでも  
参加できます。  
入場無料

年間3万人前後の自死を数える日本は、1年間に十数万人の自死遺族を生む社会であります。

「自死遺族でなくなる日」は訪れることなく、遺族の人数は累積し、数百万人にのぼります。

この多くの自死遺族は、悲嘆、自責感、哀切、怒り、自身のうつなどに苦しむ者であると同時に、

「自分と同じようなつらい体験をする人がこれ以上、出てほしくない」と、痛切に願う者でもあります。

このシンポジウムでは、自死遺族本人が、自らの体験をもとに 自死予防に向けて、

また、自死遺族支援のために訴えたいことを語り、歌をささげます。私たちの想いをどうぞ聴いて下さい。

会場

広島県民文化センター 5階 大講義室

広島市中区大手町1丁目5-3（「エディオン」広島本店本館斜め前）

日時

7月20日（土）13時～15時30分

お問い合わせ  
申込み

「小さな一歩」ネットワークひろしま

■受付専用電話／082（221）6020

■Fax／082（511）1347

■申込みフォーム／ <http://chiisanaippo.com/otoiawase.html>

■メール／[info@chiisanaippo.com](mailto:info@chiisanaippo.com)

※お名前、ご連絡先を明記の上、お申込み下さい。

いただいた個人情報は事務局目的以外で使用いたしません。個人情報の守秘を厳守します。

## ■プログラム

### 1部：13時 基調講演

「悲しみは愛しさと共に」

全国自死遺族連絡会 世話人 田中幸子氏

### 2部：14時 遺族は語る

「遺族が考える自死予防」

「小さな一歩」ネットワークひろしま 米山容子

（他の遺族もゲストスピーカーで登壇します）

### 3部：15時 音楽の分かち合い

「亡き人を想う歌」 音楽療法士 久保敬子

### 4部：意見交換、主催者あいさつ

田中幸子氏 プロフィール

全国自死遺族連絡会世話人。2005年に長男を自死で亡くす。2006年「藍の会」設立。仙台市・角田市・宮城県自死対策委員）

久保敬子氏 プロフィール：

エリザベト音楽大学宗教音楽学科パイプオルガン専攻卒業。兵庫県音楽療法士。日本音楽療法学会正会員。現在、広島県内の福祉施設を中心に活動）

## ■「小さな一歩」ネットワークひろしま のご紹介

2013年2月に発足した、自死遺族による自助グループ。同じ苦しみを持つ人同士が集まり、想いのたけを語り合う「分かち合い」を毎月実施している他、1人で語りたい方には「心の語り場」を開設している。5月末現在、特定非営利活動法人設立認証申請済み。

- 「自死遺族の希望の会」  
偶数月第3土曜日 15時～
- 「うつなど、心に病を持つ方と家族の会」  
奇数月第3土曜日 15時～  
【会場】日本キリスト教団広島教会 1階集会室  
※宗教活動は一切行っていません。
- 「心の語り場」随時開催（原則として平日夕方）

事務局：広島市中区幟町1-13-403

電話：090-8358-2377（米山）Fax：082（511）1347

HP：<http://chiisanaippo.com>

Mail：[info@chiisanaippo.com](mailto:info@chiisanaippo.com)

【後援】広島県／広島市／広島市社会福祉協議会／独立行政法人 労働者健康福祉機構 広島産業保健推進センター／  
広島西南ロータリークラブ 【協力】働く者のメンタルヘルス相談室

同時開催

## 「自死遺族の想いを伝えるパネル展」

会場：広島県民文化センター展示室（地階）

時期：7月17日～20日

主催：働く者のメンタルヘルス相談室

大阪市北区東天満1丁目10番12号新日本天満ビル401号

電話06-6242-8596、FAX06-6881-0782

※2007年から全国各都市で開催。来場者は1万人を超える。  
広島は35回目の開催になります。

2年(平成24年)12月1日 土曜日

2012-12-1 日本海新聞

日本海新聞

過労やいじめなどで自ら命を絶った自死者の遺族の想いを伝える「2012 自死遺族フォーラム in 米子」(とっとり自死遺族自助グループ「コスモスの会」主催)が1日、米子市で開かれる。同会の世話人、厨子麗子さん(61)=鳥取市=は「自死者の現実を知ってもらいたい」と話している。

同フォーラムは県内では3回目。遺族が提供した生前の写真や遺族の手記など約150枚のパネル展示とともに、遺族の講演や意見交換などが行われる。

厨子さんは2004年に夫の敏明さん(当時56)を亡くし、警察の遺体の扱いや周囲の偏見で苦しんだ経験から08年に「コスモスの会」を立ち上げ、自死遺族同士で思いを語り合ってきた。フォーラムには「遺族が2次被害を受けることのない世の中になってほしい」と思いを寄せる。

足立昇さん(55)=米子市=は、01年に亡くした長男、洋さん=当時(20)=の写真や遺書、自らの手記を提供した。少年2人に執拗に恐喝を受けていたことを苦にしての自死だった。少年たちは恐喝容疑で逮捕され、民事訴訟では賠償命令も出たが支払いはない。足立さんは「加害者は保護され、

きょう米子でフォーラム

### 自死者の現実知って

洋さんとの思い出の写真を見詰める足立さん。11年間、思い出さない日はなかった=30日、米子市錦町1丁目のふれあいの里



被害者は泣き寝入りするだけ」と悔しさをにじませる。

フォーラムの会場準備があった30日、幼少時代の洋さんの写真パネルをいとおしそうに眺めながら「家にアルバムはあるけど、開けることはほとんどない。このパネルもほしいけど、家にあったら一日中泣いてしまうかも」と足立さん。遺族の悲しみが癒えることはない。

フォーラムは1日午後1時半から、米子市錦町1丁目のふれあいの里で。入場無料。



愛する孫を見つめる

2012年3月 山口県岩国市民会館展示室



野田聖子担当大臣の視察

2009年3月 大阪枚方市民ギャラリー